



# パワーパル オプション 発電機過熱防止システム

LH200/500/1000, HH200/500 共通

1. 発電機が通常運転中では発電機のコイル温度は正常で、且つ発電機の温度上昇分は本体金属を通じ空冷されています。パワーパルシリーズは経済性を重視したシステムですので、冷却ファンは内蔵されていません。
2. ユーザーの使用状況のなんらかの理由で、過負荷が発電機に長時間与えられた場合、次第にコイルの温度が上昇し、発電機コイル上部に設置された温度計が **60°C** を検知した時点で、センサースイッチが“オン”になります。  
(この時、コイル温度はそれ以上と考えられます)
3. センサーから電気信号が送られ、電気制御ボックス内に組み込まれた**過負荷防止制御回路が作動し、100V 出力を遮断します**。その時、**過負荷警報赤ランプが点灯**します。
4. 100V 使用停止が発生した場合、ユーザー側では何が原因かを調査し、適正な使用環境に改良する必要があります。その後温度センサーが **40°C** 以下にならない限り 100V 出力は遮断されたままです。この間、発電される電力は自動負荷装置で吸収され、発電機は安定した回転を続行します。温度センサーの誤差は±5°Cです。

しかし、使用者側で、ある場合には、温度が下がるまで待ち続けなければならないのは困る！！、負荷を下げて運転したい！！ 何とか運転続行したいと望まれるかもしれません。その時は強制運転用の黄色スイッチを押します。同時に強制運転用のスイッチ内の黄色ランプが点灯し 100V 出力が復帰します。一方、過負荷警報 赤ランプは点灯したままです。

5. 負荷を減少しての、強制運転中 次第にコイルの温度が下がり、40°C 以下になった場合、過負荷警報赤ランプは消えます。しかし強制運転中の黄色ランプは点灯したままです。
6. ユーザー側では、強制運転黄色スイッチを再度押します。黄色ランプが消え、強制運転は解除され、過負荷保護回路が待機状態となり、全て正常化されます。

強制運転中でも、過負荷を続行した場合、発電機コイルの更なる温度上昇が発生します。しかし、強制運転モードの為 100V 遮断は起こりませんので、非常に危険な状態になってしまいます。強制運転は可能な限り実行しないで下さい。あくまでも緊急避難対策としてご利用下さい。最悪の場合コイルが焼け切れ、発電不能となり、修理不能となります。

December 2008